

宝くじと働く意味

福島県・福島県立福島高等学校 1年 伊藤 悠

先日、私が小学校の頃の卒業文集を暇つぶしに見ていたときのことだ。いくらも並ぶ学級ごとの企画の一つに、私の目は止まった。

『もしも宝くじで1億円当たったらどうする?』

そのように銘打たれたその企画は、まさしくその名の示すとおり、一人ひとりが「もし宝くじで1億円当たったとしたとき」の1億円の使い道を書くというものだった。なるほどその人の人間性がよく出そうで、仲間とちりぢりになり、仲間のことを忘れてしまいそうになってしまう卒業だから、こうした企画を卒業文集に載せるのは実に適切だなと感心した。なんだか興味がわき、私はじつくりと学友たちの1億円の使い道を見せてもらった。

すると、豪邸を建てる、遊んで暮らす、半分だけギャンブルにつき込む……などなど、夢にあふれた考えが多く見られた。なかには寄付をするとか、すべて貯金をするという強者もいたが、たいていの者は、宝くじで手に入れた財産の大部分を自らの楽しみのために使い、働くことをしないというものだった。

文集を読み終えて、私は考えた。もしも

この企画と同じように突拍子もなく、しかし1億円などと妙に現実的な値段ではなく、いわゆる“一生遊んで暮らせる額のお金”が手に入ったとしたら、私たちはどういった生活をするのだろうか。

私は多分、卒業文集の例の通り、手に入れた財産の大部分を自分の楽しみに使うのだと思う。恐らく、私以外の人もそうするのではないだろうか。なにしろ、働かなくとも生きていけるどころか、一生遊んで暮らせるのだ。わざわざ苦勞してお金を稼ぐことに何の意味があるだろう。私はそう結論づけた。

しかし、それからしばらくして私は、結論づけたはずの考え——一生遊んで暮らせる財産を持ったとき、人が働く意味は無い——に、はたと疑問を持った。

どこに疑問を持ったかと言えば、前出の考えでは「働くことの意味は、遊んで暮らすこと」になってしまうという点だ。遊んで暮らせるほどのお金があるなら働かなくても良いということは、働くということが、遊んで暮らすためのお金を稼ぐための営みだけでしかない、と言ってるも同じだ。

どうも何かが違う気がした。働くということが、そのままお金に直結してしまうこと

に、私は引っかけりを感じた。

その引っかけりの原因は、私が過去に感じたある気持ちに由来していた。

……私が小学校中学年のときだったと思う。当時の私は自己中心的で、自分さえよければ周りがどうなろうと知ったことではないとまじめに考える、かなりのわがまま人間だった。そんな私だったから、当然、仕事とか、働くこととかが嫌いだった。

ある日のことだ。私がいつものように帰宅しようと教室を出たとき、同級生の一人が私に話しかけてきた。

なにやら、自宅の鍵をなくしてしまったという。暇だったからか、家に入れないのを哀れに思ったのか、私は彼女の鍵を捜すのを手伝うことにした。

結局、鍵はすぐに見つかった。大勢の協力者がいたのだが、鍵を見つけたのは偶然にも私だった。

捜している最中、私は妙に楽しんでいて。宝探し気分、探偵気分、そういったものも楽しんでいて要因にあげられるだろう。しかし、今思い返せば、そのとき私は、「もしも自分が見つけられたなら、同級生を喜ばせることができる」と考えて、それによってわくわくしていたように思う。もちろん小学生だったのだから、これより無自覚で曖昧な考えだっただろう。けれど私は、確かに幼いながらに薄ぼんやりと、人に喜んでもらえることを楽しいと感じ、無償で仕事をしたのだ。

予想通り、同級生に鍵を渡したら、それはもう喜んだものだった。そして、もちろん感謝の言葉を私にくれた。今思い出しても

嬉しくなったりこそばゆくなったりするくらい、そのときの感謝の言葉は嬉しかったのを記憶している。

……過去、私がしたことは、世間一般で呼ばれる「働くこと」と比べると、働く、と言うよりも、善意からのお手伝い、といった感じに普通はとられるだろう。だが私は、「働くこと」というのは、いわゆる働くこと……つまり、就職とかアルバイトとか経営とかではなく、私の過去のよう、人のために何かをしてあげることが、真に「働くこと」なのではないかと考える。

すなわち、助けてあげたい、願いを叶えてあげたい、楽をさせてあげたい、喜ばせてあげたい……そういう、何かをしてあげたいという理由があって、そのために、何をすればいいのかがある。それが、本来の「働くこと」なのではないだろうか。お礼や給料はあくまで感謝の気持ちで、それを求めて働くのは、「働くこと」から外れてしまった行動なのだと思う。私たちにとっての「働くこと」は、発生の仕方が正反対だ。お礼や給料をまず考える。それから仕事の内容を吟味して、仕事をするかしないかを決める。誰の何の役に立つかなんて知らないで働く場合も多々ある。

それだから仕事が楽しいと感じない。だから給料について嘆いてしまう。だから仕事をやりたくないと言う。できれば遊んで暮らしたいと願う。

お礼や給料にしか目のいかない人には、「働くこと」の良さが分からない。だからきっと、一生遊んで暮らせるお金が手に入れば、遊ぶばかりで働かなくなるだろう。

「働くこと」の良さが分かる人は、お金では買えない充実感や達成感を知っている。だからきっと、一生遊んで暮らせるお金が手に入っても、毎日遊ぶにしても、なにかしらの「働くこと」をするだろう。

……世の中がそううまくいかないことは知っている。やりたくてもできないとか、やむを得ずお金しか考えられないとか、誰も彼も、もちろん私も、本当の「働くこと」ができるかどうか分からない。

けれど、私は知っておきたいのだ。また、周囲の人には考えてほしいのだ。「働く」ということは、自分のためだけにすることではないということをお金をもらったり感謝の言葉をもらうのは、誰かが自分の働きによって喜んでくれたからだということ。仕事は

自分の意志ですることだということ。それを知っているだけで、「働くこと」の意味は大きく変わるから、私は「働くこと」をそう考えていたい。また、周囲の人に「働くこと」を理解してもらいたい。

『もしも宝くじで1億円当たったらどうする?』

そう聞かれたら、私は臆面もなくこう答える。

遊んで暮らします!

「働くこと」を見失いさえしなければ、いくらお金があっても、人は「働くこと」を止めはしない。だから、お金は自分のために使っても問題ないと思う。

要は、考え方次第だと思うのだ。